

第17回
中部地区路面電車サミット金沢大会

LRT時代の 新たな幕開け

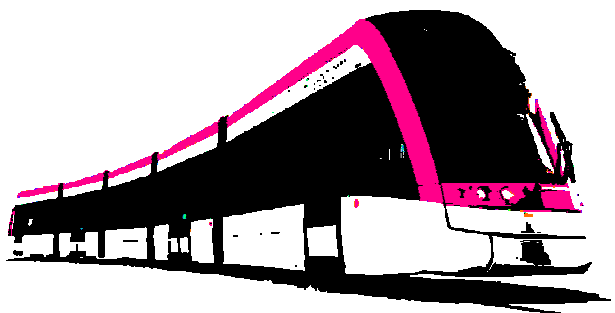
—宇都宮、そして金沢—

2018年9月29日(土)

金沢歌劇座 3F大練習室

金沢市下本多町6-27

参加費：講演会500円 交流会4,500円



環境、福祉、まちづくりの観点から注目される、次世代型路面電車(LRT/ライトレール)

2018年5月。余曲折を経て、ついに宇都宮市で全線新設のLRTが着工されました。

*

「水平のエレベーター」「走る回廊」と呼ばれ、世界中で再生が進んできた路面電車。

日本でも、その新たなステージが幕を開けました。

一般公開 講演会

「宇都宮のLRT—これまでとこれから」

宇都宮大学名誉教授 古池弘隆氏

13:30 受付

14:00 講演会

※事前申込み不要。自由にご参加いただけます。

中部地区

路面電車愛好支援団体協議会

15:30 全体会議

・加盟団体近況・活動報告

・次回開催地の協議

17:00 交流会

カフェアルコ フレーゴにて

主催：金沢・LRTと暮らしを考える会

共催：中部地区路面電車愛好支援団体協議会、富山大学都市デザイン学部都市政策支援ユニット、
とよはし市電を愛する会、NPO法人ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)、路面電車と都市の
未来を考える会・高岡(RACDA高岡)、万葉線を愛する会、ASITA(北勢線とまち育みを考える会)、
岐阜未来研究団、関に電車を望む会、LRTで結ぶ会(順不同)

協賛：NPO法人 市民環境プロジェクト、明日の金沢の交通を考える市民会議

宇都宮のLRT —これまでとこれから

2018年5月。日本で初めてLRTの全線新設に着手した宇都宮。
わが国で最も早くLRTの計画案を作成した金沢。

両中核市において、都市圏の公共交通の〈軸〉として次世代型
路面電車〈LRT〉の果たす役割は大きいといえます。

一歩先じた宇都宮の挑戦は、全国各地での、鉄軌道を最大限に
活かした公共交通再編のモデルケースとなります。

今後、AIやIoT、自動運転の技術を活用したモビリティの進化と
多様化が急速に進むと予想されます。そんな中、不動の〈軸〉と
して都市の公共交通を支えていく路面電車は、単なる交通手段で
はなく地域に欠かせない社会インフラとして、その存在感をま
ます高めていくことでしょう。

本講演では、宇都宮市の具体的な事例をもとに、いかにLRTを
実現し、そして、それをどのように〈まちづくり〉に活かしてい
くか、そのための課題と展望を語っていただきます。

講師紹介

古池弘隆（こいけ・ひろたか）

1940年、福岡県出身。

ワシントン大学大学院博士課程修了、カナダBC州立研究所計算センター長、
宇都宮大学工学部教授などを経て、現在、宇都宮大学名誉教授。

主な専門分野は交通計画、都市・地域計画。

1992年、宇都宮都市圏総合都市交通体系調査（パーソン・トリップ調査）
に関わり、宇都宮の都市交通の実態、課題を研究。2001年から「新交通
システム導入基本計画策定調査委員会」委員長として、宇都宮でのLRT
導入計画を策定、その実現に尽力している。

